

## NBIや拡大観察は 大腸病変の確認や 診断に有用

ただともひろ胃腸科肛門科  
院長 多田智裕先生



内視鏡の新たな診断技術としてNBI(Narrow Band Imaging:狭帯域光観察)が注目され、導入を進めるクリニックが増えています。そこで今回は、開業と同時にNBIが利用できるEVIS LUCERA SPECTRUMを導入し、年間5,000件以上の内視鏡検査を行っているただともひろ胃腸科肛門科を訪問し、上部内視鏡検査や下部内視鏡検査におけるNBIや拡大観察の有用性について、院長の多田智裕先生にお話を伺いました。

### 内視鏡医としての専門性を活かすため メディカルモールに開業

ただともひろ胃腸科肛門科は、JR埼京線・武蔵野線の武蔵浦和駅東口から徒歩4分ほどのメディカルモール・武蔵浦和メディカルセンターの2Fにある、内視鏡検査と治療を中心に、肛門科の日帰り手術なども行う胃腸科・肛門科の専門クリニックです。院長の多田智裕先生は、1996年に東京大学医学部医学科を卒業後、同大学医学部附属病院外科に入局。東京都立多摩老人医療センターや東京都教職員互助会三楽病院、東京大学医学部附属病院大腸肛門外科、日立戸塚総合病院などに勤務。その後、大腸肛門科の専門病院である東葛辻仲病院勤務などを経て、2006年7月にただともひろ胃腸



科肛門科を開業しました。

開業にあたって多田先生が重視したのは、内視鏡医としてこれまで培ってきた経験や専門性を、開業後も臨床の場で活かしていきたいということ。「一般的に、開業すると内科から外科まで全般的に診るといえるケースが多いのですが、私はあくまでも内視鏡検査や治療を中心とした、消化器疾患専門クリニックにしたいと考えていました。武蔵浦和メディカルセンターは、開業を考えていたときにたまたま目に留まった物件だったのですが、さまざまな診療科のクリニックが集まるメディカルモールということで、専門以外の患者さんは他のクリニックに紹介することもできます。その意味では、私が考えていた消化器疾患に特化した専門診療を実現できる理想的な環境だったのです」と、多田先生は開業の経緯について語っています。

### 無痛・安全・高精度が クリニックの基本的なポリシー

同クリニックの特長は、無痛・安全・高

精度な診断・治療を実践していること。「これまで一般的に、内視鏡検査における患者さんの苦痛軽減という視点での取り組みがあまり積極的には行われてきませんでした。しかし、より多くの人に内視鏡検査を受けてもらうためには、患者さんの立場に立ってできるだけ苦痛の少ない検査を実践していく必要があります。そこで、大腸内視鏡検査に関しては先端キャップを用いた独自の挿入法と軽いセーションを組み合わせることで、また上部内視鏡検査に関しては咽頭反射のほとんどない経鼻挿入を行うことで、患者さんが痛みを感じない楽な検査を実現しているのです」と、多田先生は無痛検査の重要性を強調します。

もちろん、患者さんに苦痛を与えない楽な検査を行うには、経験に裏付けられた高度な技術が必要とされ、これはそのまま事故のない安全な内視鏡検査につながります。また、同クリニックでは内視鏡洗滌消毒装置OER-2を2台導入し、検査が終わるごとに毎回スコープの高レベル消毒を行っています。まさに、安全を最優先に考えた万全の感染予防対策を取っていると云えるでしょう。

多田先生が目指しているのは、大学病院よりも充実した設備で、世界最高レベルの胃腸科・肛門科診療を提供すること。そこで同クリニックでは、埼玉県で初となるEVIS LUCERA SPECTRUMの導入をはじめ、開業当初から常に最新の内視鏡システムや医療機器を揃えてきました。スコープに関しては、大腸検査用に拡大ハイビジョンスコープCF-H260AZIと細径のPCF-Q260AIを、上部検査用には経鼻挿入可能な細径スコープGIF-N260やGIF-XP260Nを導入し、さらに現在は最新機種GIF-XP260NSをメインで使用しています。また、画像ファイリングシステムとして、内視鏡レポート作成も可能なSolemio ENDO Belleを導入、電子カルテとの連携も実現しています。「NBIをはじめ、最新の医療技術は急速に進歩しています。高精度な診断・治療を行うには、最先端の医療機器の導

入は不可欠なのです。大きな病院では時間がかかりますが、クリニックであればよりスピーディに最新の機器の導入も決断することができます」と、多田先生はオーナー経営者としての考え方を語っています。

#### NBIや拡大観察は 大腸病変の確認にも有用

新しい技術を積極的に活用する多田先生は、開業と同時にNBIが利用できるEVIS LUCERA SPECTRUMを導入しています。「NBIの第一のメリットは、上部内視鏡検査で食道がんの早期発見が可能になるという点にあります。最新の経鼻挿入可能な細径内視鏡では、これまでの経口内視鏡と遜色ない画質と光量を実現しています。そのため、経鼻内視鏡によるスクリーニング検査でも、NBIを活用することで早期食道がんなどの拾い上げを、従来機種よりも実現できるようになりました。また、過形成性ポリープや腺腫といった大腸病変の診断を補助するための新たな機能がプラスされたという意味では、大腸内視鏡検査においてもNBIや拡大観察は大きなメリットがあります。S状結腸や直腸など病変の確率が高い部位に関しては、何らかの異常が認められた場合には、NBIや拡大観察で慎重に観察を行うべきでしょう」と、NBIの有用性について指摘しています。

また、多田先生は、「最新の機器を揃えるためには、それなりの導入コストがかかります。今回、拡大内視鏡+NBIに保険料が加算されることになりましたが、その分だけ早く減価償却できるので、クリニック経営という観点から考えた場合には大きなメリットがあります」と、保険料加算の影響についても語っています。

年間5,000件を超える内視鏡検査を行っている同クリニックですが、そのうち500件ほどは他の医療機関からの紹介だといいます。「さいたま市は医師会の結びつきが強く、病院と診療所との役割分担が徹底しています。そのため、医療機関同士の病診連携や診診連携がきちんと機能しており、地域全体で質の高い医療を提供する体制が整っているのです。そのなかで内視鏡専門クリニックとして、今後も地域医療の向上に貢献していきたいと考えています」と、多田先生は抱負を語っています。

(2011年1月6日、ただともひろ胃腸科肛門科にて取材)



ただともひろ胃腸科肛門科のスタッフの皆さん

埼玉県

### ただともひろ胃腸科肛門科



#### 施設概要

【施設名】ただともひろ胃腸科肛門科  
【所在地】〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所7-2-1-202 武蔵浦和メディカルセンター2F  
【院長】多田 智裕 先生  
【診療科目】胃腸科、肛門科、外科  
【ベッド数】10床  
【設立年月日】2006年7月  
【診療時間】9:00~12:30、15:00~18:30(土曜・日曜は9:00~11:30、13:00~16:30)、水曜・土曜午後・祝日は休診、日曜は予約内視鏡検査のみ  
【内視鏡検査数】年間約5,300症例(上部:2,600症例、下部:2,700症例、2010年実績)  
【連絡先】TEL.048-837-9333  
【ホームページ】<http://www.musashirawa.jp/ichoka/>

#### PROFILE

【生年月日】1971年8月14日生まれ  
【出身地】東京都  
【学歴】1996年東京大学医学部医学科卒業、2005年東京大学大学院外科学専攻卒業。  
【職歴】1996年東京大学医学部附属病院外科入局、東京都立多摩老人医療センター、東京都教職員互助会三楽病院、東京大学医学部附属病院大腸肛門外科、日立戸塚総合病院、東葛辻仲病院などを経て、2006年7月ただともひろ胃腸科肛門科開業。



#### 多田先生が考える NBI観察・拡大観察 の有用性

##### 上部内視鏡検査におけるポイント

- 経鼻挿入で患者さんにとって苦痛の少ない内視鏡検査が実現できる。
- 経鼻挿入可能な細径スコープでも画質・明るさが向上し十分NBI観察ができる。
- 早期食道がんなどの見つけにくい病変の拾い上げに貢献できる。

##### 下部内視鏡検査におけるポイント

- 過形成性ポリープや腺腫などの大腸病変の診断に貢献できる。
- S状結腸や直腸など病変の確率が高い部位を詳細に観察できる。
- 拡大観察+NBIの保険料加算で導入コストの償却が容易になる。